

「熱中症」を防ごう！

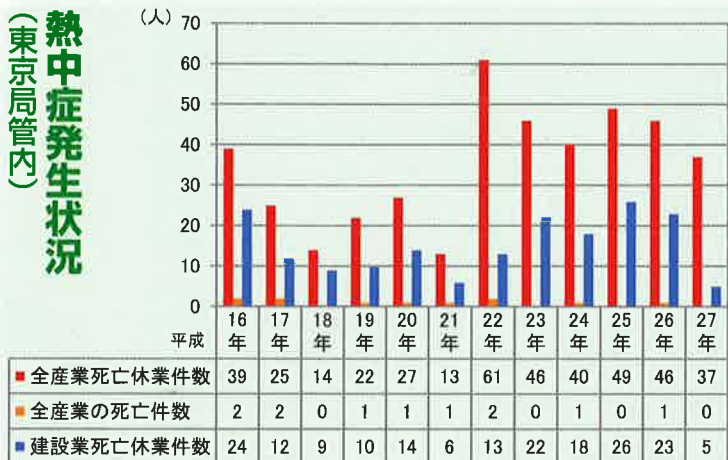
作業前 管理者等による 体調確認!! 作業中



平成27年、熱中症による休業4日以上労働災害は37人（2月15日現在の速報値）であり、前年に比べて減少しました。業種別では、建設業が約14%を占め、そのほか警備業、小売業など幅広い業種で発生しています。また、屋外作業に限らず、屋内作業においても発生しています。

熱中症に対しては、正しい知識と適切な予防対策や応急処置が必要です。本格的な夏を迎える前から、熱中症の予防対策を計画的に進めましょう。

（東京局管内）熱中症発生状況



■平成27年に発生した熱中症の発生事例

発生月時間	業種	発生状況	発生時気温℃ (最高気温)	被災程度
7月14時	化学工業	屋内試験室で、コンロを使って試験資材の配合、締め固め作業をしていて発症した。エアコンを使用するも、コンロで室内が暑かった。	29.4 (33.0)	5日
7月16時	警備業	建物の外壁塗装工事に伴う交通誘導警備中、体調が悪くなり、救急搬送され、熱中症と診断され入院した。	33.6 (34.3)	1ヵ月
8月13時	建築工事業	個人住宅の改修工事にて、床下の配管の切り回し作業中に、気分が悪くなり受診した結果、熱中症により入院した。	32.9 (34.1)	1週間

気温は、東京管区気象台の所在する千代田区等のものであり、参考です。

熱中症とは 熱中症は高温、多湿の環境下で、体内の水分及び塩分のバランスが崩れたり、体内の調整機能が破綻するなどして発症する障害で、症状などにより次のように分類されます。これらの症状が現れた場合には、熱中症を発症した可能性があります。

I度	めまい・失神 「立ちくらみ」のこと。「熱失神」と呼ぶこともあります。	重傷度 小 ↓ 大
	筋肉痛・筋肉の硬直 筋肉の「こむら返り」のこと。「熱痙攣」と呼ぶこともあります。	
	大量の発汗	
II度	頭痛・気分の不快・吐き気・嘔吐・倦怠感・虚脱感 体がぐったりする、力が入らないなど。従来「熱疲労」と言われていた状態です。	大
III度	意識障害・痙攣・手足の運動障害 呼びかけや刺激への反応がおかしい、ガクガクと引きつけがある、真直ぐ歩けないなど。 高体温 体に触ると熱いという感触があります。従来「熱射病」などと言われていたものが相当します。	